

# なんかい

NANKAI

vol. 110

2018.05

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankairyou.or.jp/>



寮道入口に咲いた芝桜

平成30年度スローガン

## 新化・深化・進化

新年度がスタートしたこの時期は、官公庁や企業、各種団体の代表者が発信する新入社員や職員に向けた激励の挨拶を見聞きする事があります。その中で、それぞれの組織が掲げるビジョンやミッションについても紹介されており、組織の方針や指針、どんな事に取り組み、従業員に対してどんなアクションを期待しているかがキャッチフレーズやスローガンとしてわかりやすく表現されています。先月開幕したプロ野球においても、各球団ごとのチームカラーやチーム事情に応じたスローガンが打ち出されており、中にはユニークなものまで多種多様です。今シーズンは、メジャーリーグからリタイアした選手も多く、スポーツの世界ではベテランと呼ばれる私と同世代の選手達の再起に期待しているところではあります。

さて、当法人はというと、冒頭のタイトルのとおり、今年度は「新化・深化・進化」をスローガンに掲げました。昨年度、施設本館の建替え工事をさせて頂き、ハード面が刷新された事により、今年度はソフト面の更なる充実が喫緊の課題であり、

使命だと捉えています。新生・南海寮の新たな歴史を刻む第一歩として、既存の福祉サービスの充実はもちろん、新たなハードを活用した事業展開や取り組み、地域ニーズへの対応、公益的取り組み等、全てにおいてレベルアップを図る絶好の好機であり、まさに「いつやるか、今でしょ!」というフレーズが聞こえてきそうな変革のうねりと機運を感じています。

このスローガンのもと、職員一人ひとりが、「シンカ」を実現するため何をすべきかを考え、今までよりも少しだけ背伸びをして、日常の小さな事でも「シンカ」を実践していく事の積み重ねが大きな成長や飛躍に繋がると信じています。できない理由をあげればキリがありません。不合理や理不尽だと思うこともありえます。しかし、そんな事を言っても前には進みません。どうすればできるか、どうしたら良くなるのかをみんなで見つめ、一見無理だと思える事にも臆せず挑戦し、変化を求めたその先に「シンカ」があると思っています。その変化は必ずしも「シンカ」を伴わないかもしれませんが、しかし「シンカ」は変化なしにはありえません。法人として44年目の「真価」が問われています。

今年度のスローガン「新化・深化・新化」を受けて、具体的にどんな事に取り組み、何を「シンカ」させていくのかを「財務・総務」と「支援」の立場からそれぞれ報告してもらいました。



## ● 財務・総務編 事務長 佐藤葉子

施設本館の建替えが終わり、いつもと違う新年度がスタートしました。今年度はスローガン（新化・深化・進化）

を掲げ、専門性の向上と新たな事業への取り組みを充実していきたいと考えております。新しい環境になり、新たな気持ちで今までできなかった業務の振り返りや職員各々の果たすべき責任を明確にし、業務効率化を目指していきたいと考えております。うまくいかないこともたくさんあるかと思いますが、場面や状況を分析し、創意工夫ができるよう勉強、経験を積んでいきたいと思っております。

今年度も木工・農具倉庫の新築、本館と別館との通路の取付け、外構工事

など施設整備業務は続きます。他部署や委員会と協力し維持・管理の徹底を図り、利用される皆様が過ごしやすい環境、職員が働きやすい環境、関係作りに取り組んでいきたいと思っております。

さて、社会福祉法人制度改革として経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の確保、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みの責務等が既に始まっています。昨年度は評議員や理事の選任、新たな評議員会、理事会の開催、定款や役員報酬等諸規定の変更や整備、社会福祉充実残額の算定など多様な業務を進めてきました。また、福祉人材確保の推進として、新規採用者の確保、人材育成、処遇改善、資格取得の促進等に取り組んでいます。この改革の成果を出していくこれからの重要であり私たちの役割だと思っております。

昨今、公文書の改ざんやセクハラ、パワハラ問題等がメディアを騒がせています。やはり社会に信頼されるためには、事業運営の透明性や情報の開示は必要だと感じます。私たち社会福祉法人はこの改革を機に、今まで以上に存在意義、実績を発信、公開していか

なければいけません。その役割を一つでも多く進めていくためにも進歩を積み重ね、シンカしていきたいと思っております。

## ● 支援編 支援課長 倉田美晴

新本館が完成して初めての年度であり、新生・南海寮を作り上げていく第一歩を踏み出す年となります。当施設の理念と「新化・深化・新化」というスローガンの中に込められた思いを受け止め、「己の立場・役割を認識し、如何に多岐にわたる業務を遂行していくか。自身に課せられた役割を自覚し、日々業務の進捗状況、利用者支援の状況を自分の目で確認し、振り返りを行いながら進めていきたいと考えています。

今年度の課題となっている「ソフト面の更なる充実」を図るために、  
①「PDCAが廻る仕組み」を常習化する事に併せ、「OODA（状況の観察↓方向付け↓次のアクションを決定し↓実行に移す）」事を日々の業務の中で実行していく。  
②報告・連絡・相談を密に行い、発信して小さな事でも全職員で共有し、統

一した意識で業務遂行、利用者支援ができるようにしていく。

③既存の福祉サービスの充実に加え、自閉症や発達障害等の障害を持たれていられる方やご家族の多様なニーズにお応え出来るように職員の意識の向上とスキルアップを図る。特に問題行動のある方に対しては、行動分析し原因・背景となる事柄は何か検討、解決策を見出し問題解決に繋げていく等、ひとりひとりをより深く理解し、対応の幅を広げていく。以上の事に力を入れていきたいと思っております。

利用者支援においては、今まで培ってきた知識や支援技術をベースに、意思決定支援の充実、合理的配慮を基本として、安心・安全な生活を保障し、施設利用を継続して頂けるよう、また「この施設を利用して良かった」と思ってもらえるよう取り組んでいきたいと思っております。

私自身、「伝える事」の難しさを痛感しております。他者に良く理解してもらえるよう、分かりやすく伝えることができるよう研鑽に努めると共に、常に振り返りと反省を繰り返しながら前向きに「進んで」いきたいと思っております。



## 南海寮本館落成式

3月4日、熊本県を始めとした関係機関並びに日頃から施設運営にご理解とご協力を頂いております方々のご列席を賜り、施設のお披露目と落成式典を執り行わせて頂きました。

施設の内覧では、外観をはじめとして、各フロアや区画における色使いやデザイン、各所の余裕あるスペースとトイレや洗面所、共有スペースの使いやすさ等々嬉しいご意見やご感想を頂き、計画から施行にかけて職員の方々と意見を出し合い、設計や施工担当者と検討を重ねた事を思い返し感慨深いものがありました。

式典の冒頭では当施設に30年近く真

美体操のボランティアでご指導頂いております中村行江先生とお仲間の素敵なダンスで始まり、利用者さんと職員

によるほのぼのとしたダンスの披露で落成式の幕が開けました。式典ではご来賓の方々から御祝辞を頂き、整備事業の経過報告、施行、設計業者表彰の他、福祉功労者として前述の中村行江様へ感謝状を贈呈させて頂きました。

熊本地震復興の只中、人的・物的不足が否めない状況下において、関係各位のご尽力により当初の計画通り完成に至りました事に改めて感謝すると共に、ご列席頂きました皆様を始め、日頃からご協力を頂く方々、暖かく見守って下さる地域の皆様、職員OBの皆様他、まだまだ多くの人達の支えがあればこそ現在の施設運営が

成り立っている事を再認識し、整備事業が終了した安堵より、これから私達に課せられた使命と責任の大きさを思い知る一日となりました。

統括部長 中嶋幸三



オープニングの真美体操



理事長長式辞

## 家族会総会／落成記念食卓会

4月22日、平成30年度の家族会総会が開催され、昨年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算等について、全会一致で無事可決されました。

昨年度の主な事業として、施設本館建替えに伴う寄付金の協力を、家族会で提案・主導して頂きました。その結果、ご家族の皆様方より150万円の寄付が集まり、その寄付金で身体障が

い者用の車輛（スライドリフトアップシート式）を購入させて頂きました。

高齢化や重度化による通院件数の増加により、福祉車輛を利用する頻度も多くなっている事等を、ご家族の皆様にもご理解頂いて、承認して頂きました。

また、今回の役員改選により、新会長として園田達郎氏（副会長↓会長）が選任。これまで12年の長きに渡り、会長職を務めて頂いた前田伸一氏には副会長として今後も会の発展のために

ご尽力頂ける予定です。

総会終了後には、この度の落成と施設の43周年を記念して食卓会を開催。利用者や職員、ご家族を交えて、楽しく賑やかな食卓会となりました。



ダイハツムーヴ



新会長・園田氏



副施設長 松浦光毅



#桜 #満開 #花見 #スマイル



味千ラーメンボランティア訪問





地域になくても法人であるために

CSW 松下加津美

生計困難者レスキュー事業の相談員であるCSW（コミュニティーソーシャルワーカー）が、実際にどのような働きをするかについては、まず生計困難者レスキュー事業の内容を理解する必要があります。簡単に説明すると、社会福祉法人の社会貢献活動として、生計困難者への心理的不安の軽減や公的な制度やサービス等への橋渡しを目的として、生計困難者に対する相談・支援を行う事業です。支援内容には生計困難者が公的な制度やサービス等を受けられるようになるまでの間、期間や支援金額の制限はありませんが、必要に応じて生活必需品の給付や一時的な住まい・食事の提供等の経済的支援が特徴として挙げられます。CSWは地域の生計困難者の相談役となり、福祉事務所等の公的機関、社協や民児協などの機関や団体と協力連携しながら、生計困難者の生活課題に対応していきます。当施設も同事業の実施法人ではありません。

すが、まだ実績はないため他法人での相談事例を紹介すると、無職で現預金がなく電気代滞納のため電気が止められ、食べるものもない63歳男性に対し、男性がシェルターに入所するまで、滞納電気代の支払いを行い、電気を復旧させ、食材の現物支給を行った支援がありました。生きていくのに困っているが、制度の狭間で助けて貰えない人はどうすればよいか。この事業がセイフティネットの役割を果たした事になります。改正社会福祉法において、法人の地域社会へのさらなる貢献を推進している事がこのような事業が始まった背景にあります。

これまでの当法人では、障害福祉サービス事業を主に行ってききましたが、今後はそれだけにとどまらず、地域社会に貢献する法人としての活動が求められています。「施設は地域社会の一部である」と法人の基本理念にうたわれているように、私たちが地域と一体となり、福祉のスペシャリスト集団として、地域になくても存在になり、幅広い専門性を有する組織であり続ける事。これらを目指し活動していく事が、地域で共に生きていく事に繋がっていくと思えます。

虐待をしない自分と、周囲に虐待をさせない自分になる

支援員 松本 昌子

私たちの日々の支援の中で、いつ起こりうるかわからない身近な問題である「虐待」とは、擁護者、障がい者福祉施設職員、使用者による虐待。類型としては①身体的虐待、②性的虐待、③心理的虐待、④放棄・放置、⑤経済的虐待に分類されます。誰が虐待を行ったかにより通報の手順等は変わりますが、いずれにせよ「かもしれない」という疑いの段階からでも通報する義務は常に発生するのです。

障害者虐待防止の理解として障害の特性を理解すること、利用者自身に興味を持ち、より良い支援を実現することで支援者自身のやりがいにつながり、結果利用者幸せにすることができず。そのためには支援のミスや権利侵害を隠さないことが大切です。また見て見ぬ振りが虐待を招くこともあります。虐待の芽はいつ生まれるかわかりません。絶対に虐待はない、起きるはずがないという虐待を否定する心理の形成はとても危険であ

り、いつ虐待が生まれるかわからないという謙虚さを持つ事が大切です。風通しのよい職場づくりに努めることが虐待防止につながる大切な要因になるということ学びました。2005年に福岡県で起きた「カリタスの家事件」や一昨年起きた相模原の施設の事件などが記憶に新しいですが、この二つの事件でもいえる事は、職員間で見て見ぬふりをしてしまっていた。みんなが疲れ切っておりパニック状態であったなどが背景にはあり、福祉に携わらせてもらっている一人として他人事ではないと感じました。

私自身入社し2年目と福祉従事者としてはまだ未熟ですが、些細な言葉遣い一つ一つからも虐待になりかねないということに気をつけ、今後の支援にあたっていききたいと思いました。利用者の方たちと毎日ふれあい、関わらせてもらっている事で大変さの中にも小さな喜びや発見をさせて貰うことはあります。今回の研修を糧に、今後も利用者さんたちの素直な気持ちやニーズに応え、毎日の生活がよりよいものになるよう支援にあたっていききたいと思いました。



## 通所センターだより

今回は春の代表的な花、桜にちなんだ話題を紹介したいと思います。通所センターでは午前の日課で西の久保公園によく歩行に出かけるのですが、今年も多くの桜が綺麗に咲いていました。毎年雨や風でなかなか写真が撮れませんが、今年は雨が少なく、散る前に撮影することができました。何かポーズをして欲しいな、とリクエストすると、寝転がるムードメーカーのMさんとEさん。皆で両手をあげたり、縦に交互に並んでEXILEの真似をしてみたりと賑やかな撮影に、公園に遊びに来ていた方からもクスクスと笑いが起きました。曜日によって利用する方が違うので全員揃って写真撮影する事が難しく残念ですが、これからも皆さんのいい笑顔を撮れたらと思います。

さて、冬から春への移り変わりは四季の中で一番変化のある季節ではないでしょうか。当センターもこの時期、職員の退職や異動と今までにない変化を迎え、利用者さんやご家族の皆様には不安を感じさせてしまった部分もあったかとは思いますが、みんなで協力し、これまで以上に皆様に安心して頂けるよう、笑顔を絶やさずスタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。今年度もどうぞよろしくお願いたします。京塚香葉



### 支援室雑記

支援室にメダカを飼育し始めました。考え事をしてる際、ふと後ろを振り返るとメダカ達が元気に泳いでおり、餌をあげると口を開けて餌を食べる姿など可愛いです。また、最近は暖かくなり卵を産んで、小さな赤ちゃんも生れてきました。日々成長していく姿に私たちも癒され元気を分けて貰っています。一説によると泳いでいる魚を眺めると血圧を下げる効果などもあるみたいですよ。

高瀬大介

### 新任職員紹介

～よろしくお願いたします～



長井麻衣【生活支援員】



浦上寛司【生活支援員】

### 編集後記

先日、逝去された「鉄人」こと元広島カープ、衣笠氏は現役時代「どんな時でもフルスイングしないと何も残らない。明日につながらない。人生も同じかもしれませんね。」との名言を残されています。社会人の私にとっては「フルスイング＝一生懸命」と捉え、日々の教訓となっています。

今号でも紹介させて頂きましたが、家族会総会および落成記念食事会の開催に伴い、多くのご家族の方々にご出席頂きました。本当にありがとうございました。

本誌「なんかい」を毎月発行させて頂く際に、多くの方々よりご感想を寄せて頂いております。また、今年度はホームページも新たにリニューアルさせて頂く予定ですので是非ともご高覧頂ければ幸いです。

大中佑介

### 職員研修会等参加報告

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| ■ わるつ発達障がい連続講座(2月)     | 石原    |
| ■ サービス管理責任者介護分野講習(2月)  | 櫻井    |
| ■ 介護福祉士実習指導者研修(2月)     | 井上    |
| ■ 福祉サービス第三者委員研修(2月)    | 松本か   |
| ■ 知的障がい者施設協会職員研修(2月)   | 坂本他2名 |
| ■ 成年後見制度啓発シンポジウム(3月)   | 唐津    |
| ■ 知的障がい者施設協会種別部会研修(3月) | 中嶋他2名 |
| ■ 新入社員フレッシュセミナー(4月)    | 長井    |

### 今後の予定

5月6日 愛藍ピック(天草ブロックスポーツ大会)

6月 ボウリング大会